

平成 21 年度 徳島県立阿南工業高等学校 学校評価総括票

1 教育目標

- ① 一人ひとりの生徒の個性や多様性を理解し，尊重する教育を推進する。
- ② 自ら学び，自ら考え，主体的に判断・行動できる教育を推進する。
- ③ 社会的な規範を尊重するとともに，人権に対する鋭い感性を磨き，自然との共生を推進する。

2 本年度の学校経営目標

- ① 個性や能力を伸ばし，進路実現が図れる学校づくりを推進する。 [学校力の向上]
- ② 人間としてのあり方生き方を身につけ，豊かな心を持つひとづくりを推進する。 [人間力の向上]
- ③ 体験的活動をとおして，確かな技術を身につけ実践できるものづくり教育を推進する。 [実践力の育成]
- ④ 働くことの意義を学び，主体的に生きる力を身につけるキャリア教育を推進する。 [キャリア力の育成]

3 重点目標と計画

中期目標	重点目標	目標達成のための計画	評価指標・活動計画	評価指標の達成度・活動計画の実施状況	評価	次年度の取組・課題
学校力の向上	① 基礎学力の定着を図る。	出張等による授業振替や学校行事等の精選，実施方法の工夫により授業時数の確保に努める。	年間の授業実施時数を1単位当たり年間35時間を目標とする。	1，2学年の学年末での1単位当たりの実施時数は平均75%になった。	B	学年閉鎖等の影響で減少。学校行事の精選など授業時数の確保に努める。
		公開授業等を行うことにより授業方法を改善し，分かりやすく興味・関心が持てる授業を展開する。	生徒による授業評価と教員の自己評価で総合評価を行い，各教科の達成度を平均3.5以上にする。	学力向上やホームルーム活動において研究授業・研究協議を実施し，各自のスキルアップ及び指導方法の改善を図った。生徒による授業評価はほぼ達成できた。	B	分かりやすい授業を展開するため，機会を捉え研究授業・研究協議を持つように努める。
		各教科による家庭学習用課題の作成や学力向上カードの実践により，家庭学習の習慣化を図る。	学力向上カードを学期ごとに実践しその提出率を80%以上にする。	1学期は約56%，2学期は約55%と低い提出率になった。	C	基礎学力を補うものであるため，家庭学習の習慣化に努めたい。
		生徒の実態に応じた習熟度別学習を展開する。	生徒アンケートにより，その満足度を65%以上にする。	あこう意識調査の結果，各学年，各教科において約65%の満足度であった。	B	引き続き，数学，国語，英語で取り組みたい。
		自ら学び考える力を育成するためマインドマップ（MM）法を取り入れ学習意欲の向上を図る。	学力の向上に役立つとする生徒評価を60%以上にする。	工業技術基礎や情報技術基礎などでMMの基礎を，講演会などでMMの活用を指導した。あこう意識調査の結果，役立つと回答した生徒は約56%であった。	B	1年生には早い時期にMM法の基礎を習得させ様々な場面で利用する習慣を確立させる。
	② 進路実現を支援する。	2学年からのコース選択について，保護者・生徒が家庭でよく話しあえるようコース選定説明会の内容を充実する。	多くの保護者が参加するように呼びかけ，コース選択に対する生徒評価の満足度を70%以上にする。	休日と平日の夜間の2回実施したが，参加率は昨年より10ポイント下がり約60%であった。各コース学習後の1学期末での生徒希望の内75%程，最終希望の内89%が第一希望のコース選択となった。	B	専門コースの施設設備等の関係から受入人数に制限がある。コースの魅力づくりに努める。

	実力テストを実施する。 1, 2年生：国数英，年間 4 回， 3 年生：国数英社理，年間 3 回実施する。	実力テストが進路実現に役立つとする生徒評価を 60%以上にする。	あこう意識調査の結果，実力テストが学力向上に役立つと回答した生徒は，1 年生 55%，2 年生 60%，3 年生 51%であった。	B	次年度も各教科と連携して実施し，基礎基本の大切さを認識させ家庭での学習習慣を身につけさせていく。
	放課後補習を実施する。 国語・数学・英語（全学年対象）， 社会・理科（2, 3 年生対象）	昨年度と比較して実施時数を増加させ，出席率を上げる。	実施時数平均 24 回，出席率 90%であり，ともに昨年度を大きく上回った。 5 教科以外にも情報技術検定や危険物取扱者などの検定や資格の取得対策の放課後補習を各コース等で実施している。	B	参加生徒数が少なかったこともあり，この結果になった。参加者を多くするには，部活動，資格対策補習との調整が必要となる。
	3 年担任，コース長，進路課が，最新の進路に関する情報を収集し，生徒に適切な情報の提供に努める。	適切な資料や情報を収集するため中間考査時や学年末に昨年度以上の企業や大学訪問を行う。	経済の悪化に伴い教員が危機意識を持ち企業や大学訪問を行い情報収集に努めた。県内企業については，昨年以上に訪問を行い好結果につながった。	B	変動の激しい産業界の最新情報を収集し生徒の進路選択支援に活用する。
	3 者面談や応募前職場見学を行い生徒の能力・適性を生かした進路指導と進路選択の支援を行う。	生徒アンケートによる評価を行う。	求人数の激減及びそれに伴い一次内定率が低下したため進路に満足をしている生徒の割合は 80%以上にできなかった。	B	生徒の能力と企業の求める人材像を把握し一次内定率を高める。
	3 年担任，コース長，進路課が連携し生徒の能力・適性を生かした進路指導，進路選択の支援を行い進路実現を目指す。	就職一次内定率 95%，進学内定率 90%を目指す。また就職内定を 12 月までに 100%を目指す。	一次内定率は大きく減少し約 70%となった。進学合格率は 91%となった。現在，数名が未内定となっている。	C	求人数が少ない中でも生徒の能力や適性に応じた進路実現ができるようキャリア教育，実力の養成に努める。
③ 積極的な広報活動を推進する。	ホームページの内容を充実させるとともに，定期的に更新し最新の教育活動を広報する。	最低毎月 2 回ホームページを更新する。	ホームページをリニューアルし，担当者以外の教員からも更新できるシステムに変更。学校の教育活動等の紹介に積極的に努め月 10 回以上更新をした。	A	ホームページの内容の充実を図るため今年度以上に更新しやすくするための技術的サポートを行う。
	本校の教育内容や教育活動について，中学校で説明し広報に努める。	前年度以上に学校を訪問し広報する。	学校訪問は昨年度より 3 校増え 18 校となった。今年度，説明会の対象を 2 年生まで拡大した中学校が増えた。	B	本校の教育活動を紹介する大切な取組であるので，積極的に訪問していきたい。
④ 学校開放を推進する。	中学生とその保護者を対象とする体験入学を充実させる。	多くの中学生の参加を目指す。	今年度の参加者は，21 校 124 名となり昨年度より学校数，生徒数ともに減少した。	C	生徒数増加に努めるとともに費用のかからない学習内容の検討を行う。
	”徳島教育の日”に合わせ，中学生とその保護者，近隣住民に対し，公開授業，施設開放などを行う。	広報活動や内容を工夫し参加者の増加を目指す。	昨年度より地域の方の来校者は増加したが，中学生とその保護者の来校者数は減少した。	B	次年度も引き続き実施し本校の施設・設備，教育活動を紹介する。
⑤ 校内教員研修の充実を図る。	授業力のスキルアップを図るため学校内外の講師による職員研修会を実施する。	教員研修を年間 3 回以上実施する。	職員研修，講演会を 4 回実施した。他校教員の参加を含む義務研修による公開授業を 5 回実施した。全クラスで人権学習 HR 活動の公開授業を実施した。	B	教員研修が生徒の学習意欲を引き出すスキルアップにつながるよう実施時期，内容を検討する。

		教員のマインドマップ（MM）活用技術の向上を図り授業力の向上を目指す。	MMを用いた教材研究，公開授業を全クラスで実施する。	工業4科目，理科，地理，音楽4教科で実施した。公開授業は1年生の4クラスでの実施となった。MMを活用した資格取得の教材を作成し自学自習用に生徒に開放した。	B	全教員がMM法やコーチングを習得できる研修を行い生徒の学習意欲を引き出す方法を身につけ授業に取り入れていく。
	⑥ 情報セキュリティ対策を推進する。	情報セキュリティポリシー実施手順の自己点検を実施する。	情報セキュリティポリシーの遵守について教職員研修を実施するとともに情報流出の防止対策を行う。	”個人情報の保護”，”情報セキュリティ対策”，”実施手順”などの研修を実施した。情報持出時のルールを作成し徹底させた。	B	自覚と責任を持って情報を取り扱うことを徹底する。
	⑦ 事業の実施による活性化を図る。	「高校生夢・未来育成事業」とおして学習意欲向上の指導方法，自らの進路や将来の夢・希望を考えさせる指導方法について実践研究する。	実践研究計画書に沿った取組について，生徒アンケート等により評価を行う。	県外講師を含む講演会を6回開催した。LHRや工業技術基礎などの科目でMMを活用して”将来の夢”などを考えさせた。生徒アンケートでキャリアアップの向上に役立つと回答する割合が高い。	B	MMを用いた生徒の夢や希望を実現する指導方法の研究，教材開発に努める。
「産業財産権標準テキストを活用した知的財産教育推進協力校」とおして，ものづくりにおける知的財産権を理解させる。		年間指導計画書の「評価の基準」に沿って評価する。	超高強度コンクリートや競技用ロボットの製作，電動カート性能評価会を通して産業財産権について理解を深めることができ取組への意欲向上につながった。	B	今後においても，ものづくりを通して知的財産教育を継続して指導していく。	
「一人一人の夢を叶える就職支援推進事業」とおして進路実現に向けた就職指導支援策の充実を目指す。		実施計画書に沿った取組について評価する。	インターンシップや職場訪問の実施，地域の技術者など社会人講師の活用，体験発表会の開催などにより進路選択能力の育成に努めた。	B	今後とも地域産業界との連携を深め取組の充実を図る。	
人間力の向上	① 基本的な生活習慣の確立を図る。	規則正しい生活を心掛けるよう指導し遅刻をなくす。（遅刻時の声かけ，遅刻回数に応じた個別指導を行う）	1日の学校全体の遅刻数を5回以内にする。	年度当初は達成できていたが，特定のクラスで多くなった。毎月，遅刻回数に応じた係の個別指導により，以降の遅刻が少なくなったという効果が出ている。	C	学年団，担任との連携を密にするとともに保護者との協力体制を強化していく。
		積極的に明るく元気な挨拶が出来るようにする。（パワフル週間，学校安全の日に指導）	すべての生徒が挨拶出来るようにする。	毎月のパワーアップ週間や校外登校交通指導における声かけ運動により積極的に挨拶ができる生徒が増加した。	B	ポスターや看板を制作するなどにより啓発活動に努める。
		正しい髪髪服装を維持し爽やかに生活させる。（全校集会における髪髪服装指導と継続的な改善指導，帰宅指導を行う）	髪髪服装検査を月1回実施し，1週間以内に改善を要する生徒を0にする。	期限内に改善できなかった生徒が数名だったが帰宅指導を含む粘り強い指導の結果，改善できた。	B	根気強い指導とともに全教職員の共通理解を深める。保護者の理解と協力体制を強化する。
	② 人権意識の高揚を図る。	「人権を確かめる日」，「人権教育統一ホームルーム活動」の充実を図る。	人権感覚を深めるため，”あわ”人権学習ハンドブックを活用する。	人権学習ハンドブックの活用のほか，インターネットからの引用により資料を作成し充実に努めた。	B	適切な資料を活用して活動が展開できるようにしていく。

	学校の教育活動全体をとおして、人権尊重の精神を訴える。	人権意識調査等、生徒による評価を 65%以上にする。	あこう意識調査の結果、人権学習を肯定的に評価する生徒の割合は約 65 %であり、ほぼ達成できた。	B	今後とも人権尊重の精神を育てていく。
③ 環境教育を推進する	生徒に自発的な清掃美化意識を喚起させ毎日の清掃を徹底させる。	出席率 100%を目途にする。(清掃出席簿により確認)	今年度は清掃分担場所での出席率調査ができなかった。	C	内容を再検討する。全員が毎日参加するよう担任と連携を図っていく。
	定期的な大掃除、ワックスがけ、除草を実施する。	大掃除を月 1 回、ワックスがけを年 2 回、除草を年 2 回実施する。	計画通りに実施できた。	B	除草は広い校内であるので今後も年に 2 回は実施したい。
	循環型社会形成の推進のため、教室等のゴミ資源を 6 分類する資源箱を設置し、資源ゴミの分別を徹底させる。	分類程度を適宜確認し、ペットボトルのラベル除去率を 80%以上にする。	6 分類による分別は大体できるようになった。ペットボトルの平均分別率は 98.8 %で、ラベル除去、キャップ除去についても習慣になってきている。	B	キャップ回収容器の設置による成果が見られることから、さらに分別回収への工夫を行う。
	電気、水道の資源の大切さを理解させ、節電、節水に努める。	電気、水道の使用量を前年度に比較して 3%以上削減する。	電気は約 4 %減少、水道は約 40 %以上の減少となった。漏水のため使用量が前月より増大した月があった。電気コースの課題研究で製作した電気使用量監視デマンド装置の職員室設置により節電への関心が高まってきている。	A	今後においても節電、節水に努めるとともに、早めに漏水対策をしていく。
	各コースの実習等において環境保全を意識した行動ができるよう 5 R 運動を実践する。	廃棄物の分別、ものづくり技術を生かした修理、再使用、有効活用、廃棄物を出さないことなどに取り組む。	各コースでは工業高校ならではの 5 R 運動に取り組んだ。切削屑の分別、不用 V V F ケーブルの銅線とビニルに分離分別、端材を活用した除草用具の製作、コンクリート試験材を活用した花壇、車いすの修理など	B	専門教育を生かした取組や工夫をし、環境保全についての意識を高める。
④ 安全教育を推進する。	原付等の交通事故をなくすため、実技指導、講演会、自転車点検を行う。	月間の交通事故 0 を目指す。	交通事故は減少した。原付登校許可生徒を対象に実技指導を教習所で実施した。毎月の学校安全の日の前後に 2 回、自転車点検を実施した。	B	原付実技講習会についてはすべての原付免許取得者を対象とした実施を計画する。
	避難訓練をより実践に即した方法に改善する。いつでも、どこでも安全に避難し、人員が確認できる体制を整備する。	安全避難率 100%を目指す。	避難訓練では全員が安全に避難できたことを確認した。	B	より効果的な訓練方法を検討する。全校集会時などを活用し平素より防災についての意識付けを行う。
⑤ 健康教育を推進する	円滑な教育相談活動を実施するために教育相談の広報活動を行う。	教育相談室を毎日開室する。教育相談だより”やすらぎ”を年 3 回発行する	ほぼ毎日教育相談室を開室した。”やすらぎ”は 7～9 号の 3 回発行した。相談室の名称を募集し、”ほっとる一む”と名付け入室・相談しやすい雰囲気づくりを行うなどの工夫をした。	B	”やすらぎ”の内容の充実を図る。

	自らの健康管理ができるよう継続的な保健指導を行う。	保健室を繰り返し利用する生徒数の減少を目指す。	繰り返し保健室に来る生徒には継続的に保健指導を行った。	B	生活習慣に問題のある生徒への保健指導と、特に問題がなく来室する生徒への教育相談を充実させる。
	正しい食生活を実践できる態度を育てる。	食育に関する生徒講演会を実施する。	県外講師による「加工食品と体調」と題した講演会を開催した。	B	次年度も実験を伴う内容など生徒に興味を持てるような講演会を計画したい。
⑥ 読書活動を推進する。	”朝の読書”の実施期間を延長し、読書習慣の定着を図る。	朝の読書の1ヵ月継続実施を試行し、その効果を検討する。	1ヵ月継続実施の試行を関係課と協議するが各種行事や検定等との重なりにより実施できなかった。	C	年度当初から校時に組み込む試験的な運用の他、生徒の実態に応じた抜本的な転換等の検討が必要である。
	図書館の蔵書の充実と整備に努める。	新着図書等のディスプレイを工夫し、図書館だよりなどを通して興味・関心を引く書籍情報の発信を行う。	新着図書の紹介コーナーを館内2ヵ所に設置し、内容を紹介するコメントを工夫するとともに図書館だよりでの広報に努めた。図書貸し出し数は低い状況が続いている。	B	貸出数の増加を図るため、生徒のリクエストによる図書購入に加え、資格対策用などの図書の整備を検討する。
⑦ 特別支援教育を推進する。	特別な支援を要する生徒を把握して必要な支援を行う。	支援を要する生徒についての会議を学期に1回実施する。	学年会、教科担任会など必要に応じて会議を開き該当生徒への理解、対応についての共通認識を持った。	B	発達障害についての理解を深める研修機会を設ける。
⑧ 特別活動の活性化を図る。	活気ある部活動を実施するため全員加入を目指す。	昨年度実績以上の入部率にする。	入部率 82.8 %となり昨年度より少し下がった。	B	年々入部率が低下してきており歯止めをかける方策を検討する。
	競技力の向上を目指す。	前年度を上回る成績や、活動実績を上げる。	複数の大会で連続優勝記録を伸ばすなど全体的に昨年度並みの実績を挙げた。文化部も活発な活動成果を残した。	A	お互いの部が切磋琢磨して全体として活発な活動ができるようにする。
	生徒が自主的に活動する生徒会行事を実施する。	生徒会主催行事を年5回以上実施する。	阿工祭、生徒総会、予餞会など計画通りの行事を実施した。全国大会等の壮行会は7回実施した。	B	学校行事以外に生徒会独自の活動を計画し取り組むよう指導していく。
	学校行事、特に体育祭、文化祭の内容を充実させる。	昨年度以上の文化祭の来校者数を目指す。体育祭では、地域の幼稚園等との交流を図る。	インフルエンザの流行で人混みを避ける傾向の中、文化祭には昨年並みの来校者があった。体育祭では幼稚園・保育所との交流は中止をした。	B	体育祭、文化祭とも伝統の活気ある行事にしていきたい。
⑨ ボランティア活動を推進する。	地域とともに歩む学校づくりを推進するため生徒会が中心となってボランティア活動を実施する。	校外でのボランティア活動を年5回以上実施する。	今年度も車いすボランティアは生徒会を中心に実施した。インターアクト部は学校周辺や阿南駅の清掃、学童保育での活動、音楽部は老健施設などで演奏活動を行った。	B	それぞれが単独した活動が多いので連携した取り組みを検討していきたい。

実践力の育成	①ものづくりの技術・技能の向上を図る。	地域における技術技能に卓越した外部講師による技術講演会や技術講習会を開催する。	生徒アンケートによる評価を行う。	旋盤技術の講習会と、今年度は全体での技術講演会を実施した。	B	生徒の興味関心の持てる技術講演会を開催する。
		新技術に対応できる教員の資質向上を図る。	学校外の研修に積極的に参加させる。	県総合教育センターや県外企業の工業技術力の向上研修に10名を超える教員が参加した。	A	出張の精選を図りながらも必要な校外研修を確保し技術力の向上に努める。
	②ものづくり技術を生かす。	旋盤作業，電気工事作業，測量競技など高校生ものづくりコンテストに出場する。	県におけるコンテストで上位の成績を修める。	旋盤作業は県大会で優勝できたが，四国大会で3位となり全国大会出場には届かなかった。他の作業は入賞できなかった。	B	四国大会に常時出場できるよう日々の練習に取り組ませていく。
		ものづくり技術や工業技術を生かしたロボット競技会など各種競技会に出場する。	各種競技会で上位の成績を修める。	競技ロボットは決勝トーナメントに出場したが5位となり全国には届かなかった。旋盤3級技能士に3名が合格し，昨年に続き2名が一般を含む中での優秀賞である知事賞，協会賞を受賞した。	B	大会直前からではなく年間を通して技術の向上が図れる体制づくりを行う。
	③地域貢献を推進する。	ものづくり技術を生かし近隣の小学校等で生徒による出前授業を実施する。	出前授業は5校以上の実施を目指す。新しい学校との連携に取り組む。	昨年に続いて出前授業は実施できなかった。市科学センターでは生徒の実演により小学生に科学の面白さを体験させた。	C	早い段階から小学校と連携して出前授業を計画し実施したい。
		ものづくりの楽しさと学校理解を図るため「ものづくり親子教室」等を開催する。	参加した小学生親子のアンケートによる評価を行う。	予算が確保できなかったこともあり，「ものづくり親子教室」は実施できなかった。	C	材料費，工具の整備など開催に最低限必要な経費の捻出が必要である。
地域や小中高等のニーズ把握を踏まえたものづくりを通して地域貢献，学校間連携を図る取組を実施する。		該当者への満足度などのアンケート調査による評価を行う。	学校近辺の中学校，高校と連携したものづくりを実施した。防球ネット，自転車置き場表示プレートなど	B	学校間連携を通して本校の教育活動を理解してもらう取組を実施していく。	
④安全作業教育を推進する。	各コースの実習等において，事故やけがが起こらない指導に努める。	実習前の健康や作業服等の確認，注意指導を徹底する。	各コースにおいては実習前の安全点検や注意，実習中は生徒の動向への気配り，実習後には整理整頓の指導など安全作業教育を行った。	B	安全教育を通して健康管理等の自己管理ができる能力を身につけさせる。	
	実習場の機械や装置を整備し常に安全に作業できるように努める。	安全を確保するため実習機械の点検や整備を行い，不備な箇所については安全対策を講じる。	各コースとも実習装置・器具のメンテナンス，フェールセーフ対策，古いものについては交換をするなどの対策を講じた。	B	企業のZD運動，5S運動などを取り入れ，事故のないように取り組んでいく。	
キャリア力の育成	①阿工版デュアルシステムの充実を図る。	2学年全員参加の短期インターンシップを実施し，生徒の進路希望や学習内容に応じた企業先で体験できるようにする。	成果発表会を実施するとともに受け入れ先企業や参加生徒のアンケート等により評価を行う。	2年生全員が31事業所で2日間実施した。代表者が全校生徒を対象とした成果発表会において体験などを発表した。	B	専門教育や希望する進路に関連する企業等でのインターンシップができるよう企業開拓を幅広く行う。

		3学年希望者が参加する長期インターンシップを実施し、しっかりとした職業意識を育てる。	受け入れ先企業や参加生徒のアンケート等により評価を行う。	自動車整備工場、鍛冶屋のほか、新たに情報土木コースがコンクリート工場でのインターンシップを実施した。14名が参加し就職につながった生徒が出た。	A	長期インターンシップを通して確かな勤労意識、職業意識を育てていく。
② 望ましい職業観・勤労観の育成を図る。	企業見学や現場見学を通して職場の状況や働くことの大切さを理解させる。	生徒アンケートによる評価を行う。	生徒アンケートによる評価を行う。	修学旅行での県外の企業見学、従来から実施している土木関係の現場見学により、専門教育の学習の深化につながった。	B	できるだけ企業見学、現場見学の機会を確保する。
	卒業生や企業経験豊かな社会人講師の活用により、働くことへの意欲の向上や職業に対する意識の高揚を図る。	生徒アンケートによる評価を行う。	生徒アンケートによる評価を行う。	就職セミナー、進路講演会、開校記念講演、地元企業技術者による技術講演会などの実施により、望ましい勤労観・職業観の育成に努めた。	B	企業の方や先輩から働くことの楽しさや職業人として求められることなど、機会を捉え講演をお願いする。
③ 起業家精神を育成する。	模擬株式会社「鉄男」を設立し生産から管理・販売までの一貫した起業家教育を展開する。	ビジネスプランどおりに運営ができたか生徒による評価を行う。	ビジネスプランどおりに運営ができたか生徒による評価を行う。	プラン通りの運営等ができた。高校生産業教育展や阿工祭において広報活動や販売実習を行い車椅子の購入につながった。	B	本校の特色ある取組として「鉄男」による起業家教育を展開していく。
④ 資格取得を推進する。	工業の基礎技能である計算技術検定、情報技術検定3級について、一斉指導、個別指導、補習を実施し合格を目指す。	1学年全員を合格させる。	1学年全員を合格させる。	計算技術検定は93名が合格(74.4%)、情報技術検定は84名が合格(69.4%)となった。	C	全員合格を目標として取り組んでいく。
	工業に関する専門の資格や検定の取得を推進するとともに、補習を計画的に実施し合格を目指す。	昨年度以上の合格者数、合格率を目指す。	昨年度以上の合格者数、合格率を目指す。	電気工事士、危険物取扱者などの国家試験の合格者数は昨年度の比べ大幅に増加したが、各種検定は減少した。	B	合格者、合格率を上げるため計画的な補習を実施する。
阿南寮の運営	① 基本的な生活習慣の確立を図る。	寮の生活時間を守らせ、遅刻、欠席の防止を図る。名札掛を製作し、その運用により生活状況を把握するとともに寮生自身に自己の生活管理をさせる。	出席状況を昨年度と比較し良好にする。遅刻を5%以内に作る。	欠席は前年度の62%、遅刻は80%となった。登校前の細やかな巡視による指導の効果があり欠席、遅刻ともに大幅に減少した。	A	引き続き生活時間を守るように指導していく。
	② 自主学習の習慣を定着させる。	進路実現に向けた自主学習習慣の確立を図るため、自習室を活用させるとともに所属校との連携を図り、成績不振者の把握や個人面談を行なう。	月に1回各校の行事予定を掲載した「生活学習記録表」を作成し、各自に記録させ学習管理をさせる。各校とは学期に1回成績状況を把握するための訪問を行う。	月1回所属校を訪問。学校行事や部活動の計画等を把握し作成した「生活学習記録表」に基づき学習の自己管理をさせた。学期毎に把握した出席・成績状況や「寮訪問」による担任との情報交換等を生かし指導を行った。女子自習室にエアコンを設置するなど学習環境の改善に努めた。	B	女子生徒については自主学習の習慣が浸透しつつある。男子生徒は遅くまで部活動に取り組んでいることもあり自主学習が不十分のため指導に努める。
	③ 美しい寮の環境をつくる。	定期的に清掃を実施するとともに、ゴミを阿南市の分類に沿って分別する。	各舎室の清掃状況を週に1回点検する。大掃除を学期に1回実施する。ゴミの分別を点検する。	各舎室の清掃状況を週に1回点検する。大掃除を学期に1回実施する。ゴミの分別を点検する。	週2回(月・木)の一斉清掃とゴミ分別を実施した。ゴミ分別はほぼできている。大掃除は7月,12月,3月に実施した。	B